

□■養成所ニュースプラス第6号 2026□■

今週は、岩手県沖地震や台風7号・8号の接近と、自然の脅威を感じた1週間でした。被害に遭われた皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

38期生の皆さん、1学期前期のレポート作成お疲れ様でした。「受験の手引」86ページで案内している「国家試験キーワードチェック」の○×問題を6月30日までに解答してください。解答の傾向は、後日、皆さんにフィードバックします。

今週のPlus Quizは、「心理学と心理的支援」から「社会的抑制」に関する事例問題です。この問題も正解したら終わりではなく、正解ではない選択肢はどんな集団に関する理論を示しているのかも考えてください。

■Plus Quiz・・・・・・・・

【第37回問題8】職場における人間関係や意思決定に関する課題が生じたときに、その原因を理解したうえで、対応策を考えることが重要である。次の記述のような課題が職場で生じたときに、社会的抑制による事例として、最も適切なものを1つ選びなさい。

1. 上司があまり成長を期待していなかった職員よりも、期待をしていた職員の方が次第に業績が向上するようになった。
2. 会議中、本当は反対したかったが、他の多くの参加者が賛成したので賛成してしまった。
3. 一人で考えていた内容よりも、全員が参加した会議で決めた内容の方が極端な結論になった。
4. 上司が仕事上の指導をするときに非常に近い距離まで接近してくるため、強い不快感が生じた。
5. 個室で一人で作業に取り組んだときよりも、大勢と一緒にいる部屋で取り組んだときの方が、他人の目が気になって効率が悪くなってしまった。

正答と解説は最後に記載してあります。

■Yoseijo Info・・・・・・・・

- ・(37期生) 教育訓練給付制度(専門実践教育訓練)の支給希望の方へ
申請書類一式は原則として、再発行はできませんので、お取り扱いにはご注意ください。
本養成所からの申請書類発行のため、「受給資格者証と公的身分証明書のコピーの提出」及び「レポートの提出」「スクーリングへの出席」「授業料の納入」が必須となります。
- ・(38期生) 教育訓練給付制度(専門実践教育訓練)の支給希望の方へ
「受給資格者証と公的身分証明書のコピー」の提出をされていない方は、早急に提出してください。
- ・(38期生) 見込書類(実務経験証明書)のさしかえについて
入学願書提出時に「実務経験見込証明書」を提出している方は、入学資格または実習免除を満たした期間の「実務経験証明書」の提出が必要となりますので、早急に提出してください。
- ・受講の手引に“レポート作成・提出チェックリスト”があります。
レポートの作成・提出の前に必ず確認してください。
- ・(第37-38期生) 今夏のスクーリングの日程及び会場のご案内です。
詳しくはこちら→http://www.aigo.or.jp/yoseijo/?page_id=356

■Test Info・・・・・・・・

国家試験に関する情報をお届けします

- ・第39回国家試験は、令和9年2月7日です。
詳しくはこちら→<https://www.sssc.or.jp/shakai/index.html>
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟主催の全国統一模擬試験のご案内です。
詳しくはこちら→<https://www.spw-mosi.com/exam/>
- ・本養成所主催、「受験対策講座」はwebにて開催中です。

2本目の「受験対策のポイントを中心とするガイダンス」が視聴可能となりました。是非ご活用ください。

受験対策ページへアクセスはこちら→http://www.aigo.or.jp/yoseijo/?page_id=5529

※パスワード等の案内は、養成所ニュースプラス第2号、第4号に添付しています。

■Plus Info

その他の情報をお届けします

・日本知的障害者福祉協会では様々な情報を発信しております。

詳しくはこちら→<http://www.aigo.or.jp/>

■Back Number

過去のバックナンバーはこちら→http://www.aigo.or.jp/yoseijo/?page_id=2686

■Plus Column

【受験対策ミニ講座第2回／心理学と心理的支援】

1 第37・38回の科目の傾向

この科目のテキストの「はじめに」には、「学んだ知識や方法が実践のなかでどのように活かされているのか学んでほしい。」とあります。国家試験でも、知識を想起する問題だけでなく、心理学の知識をもってどのように支援するのも問われるようになってきました。

例えば、第37回問題11ではマイクロカウンセリングをふまえた「応答」が、第38回問題11では「動機づけ面接」を用いた「対応」が、同じく問題12では、応用行動分析に基づく発達障害のある児童への「支援」が問われました。

初めの2つは事例問題でした。事例問題は、第34・35・36回は出題されませんでした。第37回で1問、第38回で2問が出題されています。この傾向は続きそうですので、模擬試験、模擬問題で慣れていきましょう。

2 国家試験の対策

医学概論と同様に、法改正に左右されない内容のため、過去問を最大限活用できます。中項目の中でも「学習・行動」「認知」「人と環境」「生涯発達」「心の不適応」「心の発達の基盤」「心理アセスメント」「心理療法におけるアセスメントと介入技法の概要」は、それぞれ5年間で3回は出題されている項目です。これらの項目の理解は必須です。また、科目出題基準表の小項目にある「例示」が問題に使われています。ひととおり確認できた後は、頭の中の知識を人に説明できるようにしておくとうよいと思います。アウトプットすることは、記憶の定着を助けます。

この科目では「事例として（最も）適切なものを」選びなさいという問われ方も、毎年1～3問出題されています。この5年間でも「大きさの恒常性」「古典的条件付け」「オペラント条件付け」「エピソード記憶」「社会的抑制」「傍観者効果」「PTSD」「コーピング」について出題がありました。テキストや受験参考書にある「事例」を読みとばすだけでなく、事例からそのキーワードを理解していくこともできます。何よりも、支援現場や日々の生活と結びつけることで理解が深まり、それが国家試験の対策にもなっていきます。

この科目も、6問中4問の正解がねらえる科目です。第37回では、今回出題した問題8以外の5問、第38回では、問題9「子どもの言語発達」問題11「マイクロカウンセリング」問題12「応用行動分析」の3問は確実に正解したい問題です。

【Plus Quiz 正答と解説】

ちょうど1年前、「国家試験キーワードチェック（1学期）」の解答用紙にある「過去問チャレンジ」で同じ問題を出題しました。受験対策ミニ講座でもお伝えしたように、この問題は事例が書かれた選択肢から「社会的抑制」を選ぶというものです。

集団や対人関係に関する問題は頻出で、「社会的手抜き」「傍観者効果」「ステレオタイプ」「ダブルバインド」も複数回

出題されています。併せて確認しておきましょう。

1. ×これは「ピグマリオン効果」の事例です。「ピグマリオン効果」は、他者が期待をかけると成績や仕事の業績が上がる効果のことを言います。「教師期待効果」とも言われます。
2. ×これは「同調」の事例です。「同調」は、集団の中で少数意見をもつ者に対し無意識の圧力（同調圧力）がかかり、多数意見に合わせるように変化することです。
3. ×これは「集団極性化」の事例です。集団で何かを決めるとき、個人のメンバーの意見よりも極端な意見になりやすいことを言います。よりリスクが大きい方向に向かう現象を「リスクシフト」、よりリスクの低い安全な方向に向かう現象を「コーシャスシフト」と言います。
4. ×これは「パーソナルスペース（個人空間）」の事例です。パーソナルスペースとは、相手が自分に近づいてきたときに、不快を感じる空間や距離です。性別や文化、性格によって変わってくると言います。
5. ○「社会的抑制」とは、「周囲の他者の存在によりパフォーマンスが下がる現象」を言い、逆に上がる現象を「社会的促進」と言います。

※掲載内容の転載・再配布はご遠慮ください。

※メール内容に対する個別の対応は行っておりません。

※問い合わせ等については社会福祉士養成所ホームページより行えます。

〒105-0013 東京都港区浜松町 2-7-19 K D X 浜松町ビル 6F

Copyright2016 YoseijoNewsplus